



随分大事
なんだね

おのづから
LINEが

すごい格好

いつも
余裕な

陽キャ彼氏の

嫉妬えっち

が止まらない!!

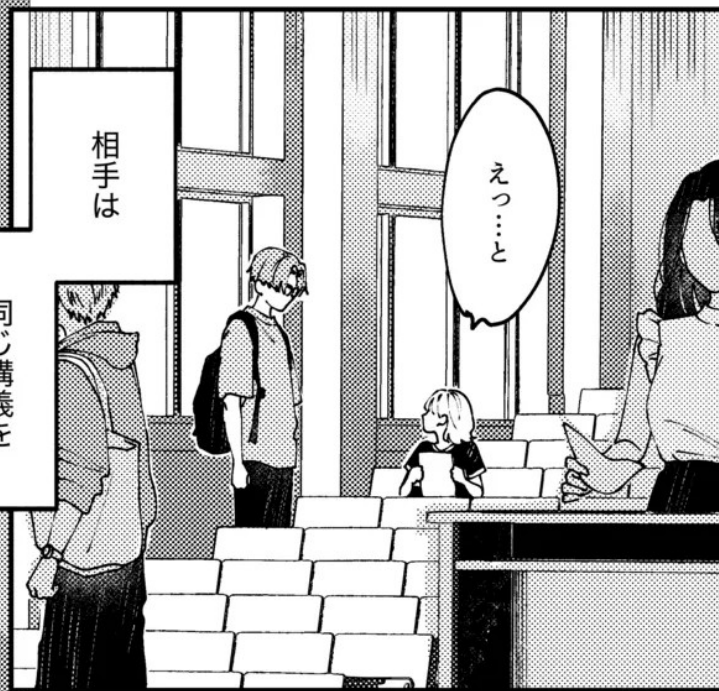
THE 猥談

あつた...
おんむっ





.....



相手は

えっ...と

同じ講義を
取ってる
同級生



ただ
伝えたくて



彼氏がいるのは
知ってるから、

返事は
要らないけど、



そっか...
分かった...



……っ

ガヤ

今まで通り
「M」だけは
してもいいかな

……



ガヤ

授業のことで
また聞きたい
こととか

あるかも
しれないし



そんな事して
いいのかな……

……



はっ

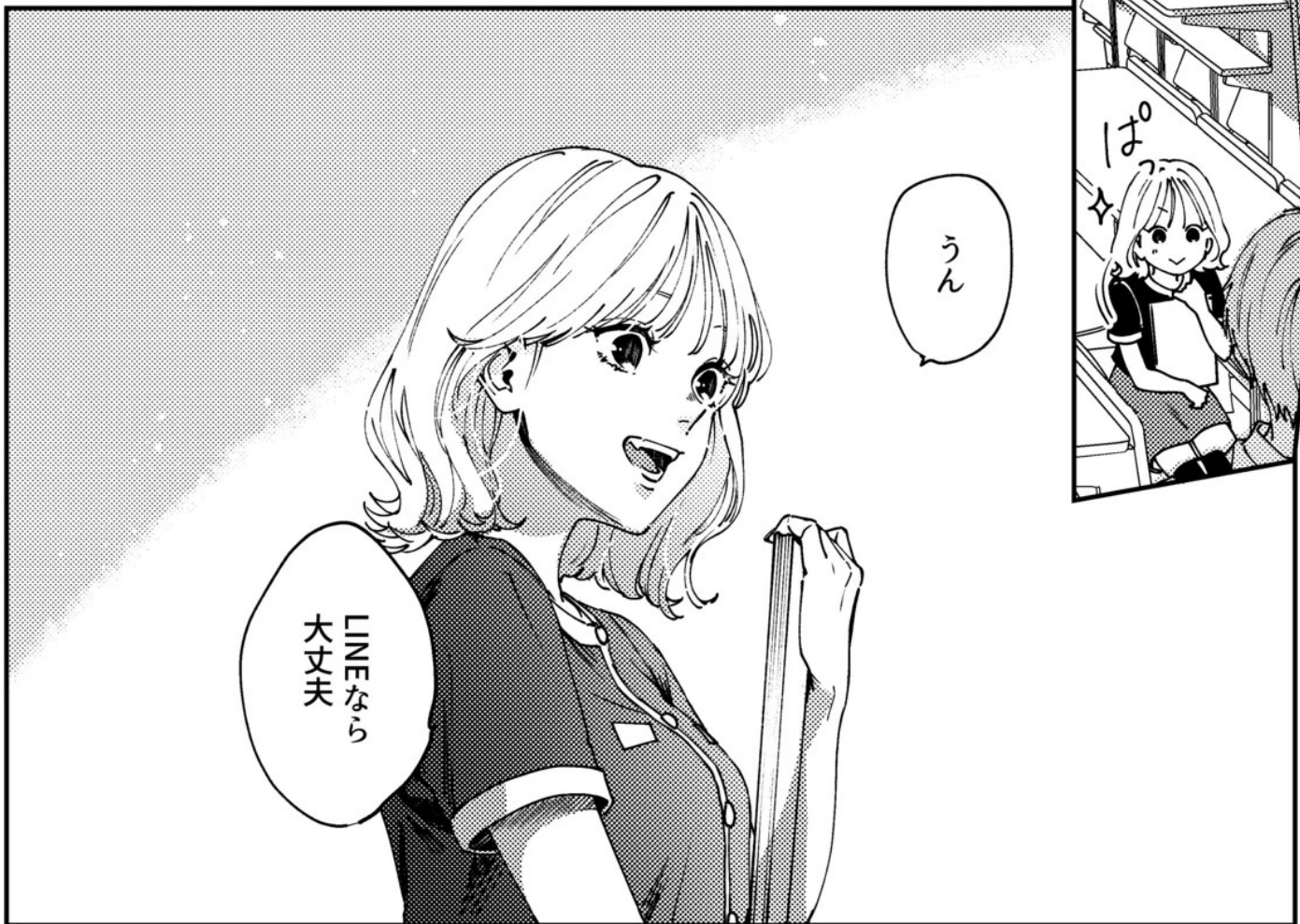


え……
告白してきた人と
連絡を続ける
なんて……





はっ☆



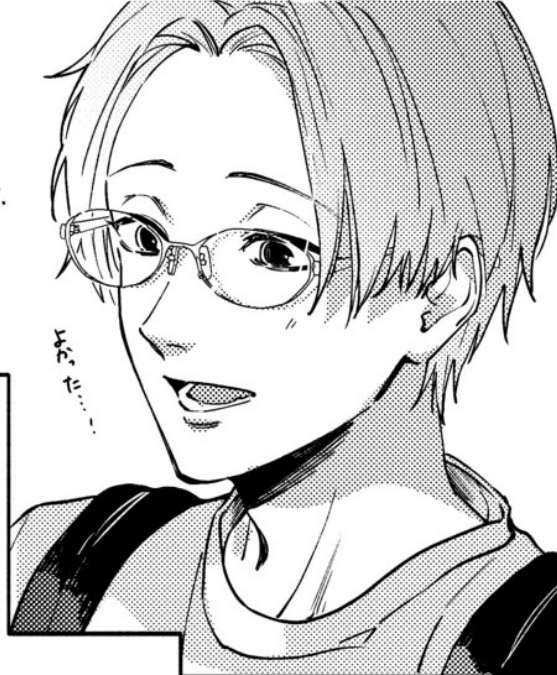
うん

「LINEなら大丈夫」



えっ本当?! いいの!?

うん!



うん...
うん...

この時
断らなかったのは、

少し期待して
しまったから





ひろきは
友達が多くて

彼が嫉妬
するかもって



買った
あれを
持てたの？



男女グループで
スノボへ行ったり



…だから
みんな中学からの
友達だって



宅飲みをしたり…



大丈夫、
今しずか以外
女に見えて
ないから

そういう
問題じゃ
なくて…

相手はどうか
分かんない
じゃん…

東縛はしたくない、
けど見過ごすことも
できなくて

喧嘩になることが
よくあった

嫉妬
してんの？
「かわい〜ね〜」

わい
わい
わっ





ちよっとくらい
意地悪しても
いらよね



21:07 おつかれ!
21:08 今日、告白されたんだ



こんなこと
言っても
何も思わない
だろうけど



おん!

まあ、この程度じゃ妬かないってわけ?



え〜〜?

これだけ?



よんだ

21:10

週末漫喫行こうって話

21:12

明日にしない?



漫喫行こうっ

21:12

明日にしない?



ひろぎー!

待った
よね?

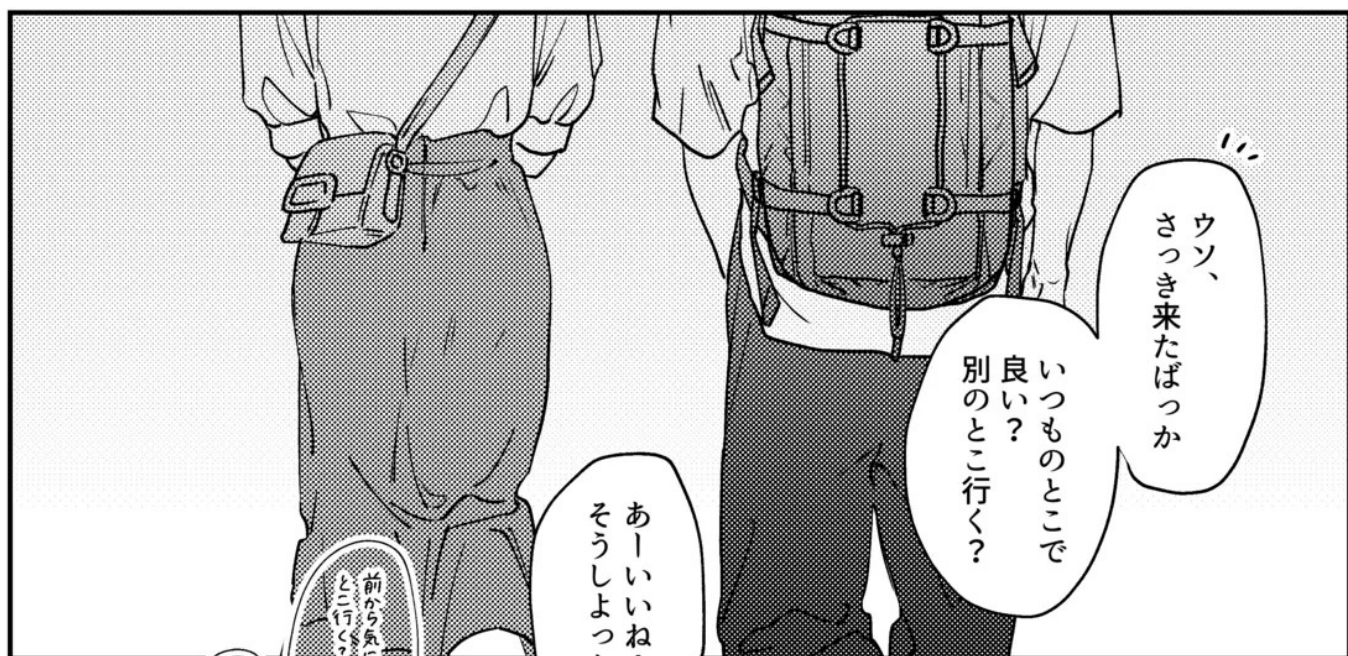
遅れて
ごめん!

お、来たな〜?



ほんつとに
ごめん!

めーちや待った



ウソ、
さっき来たばっか

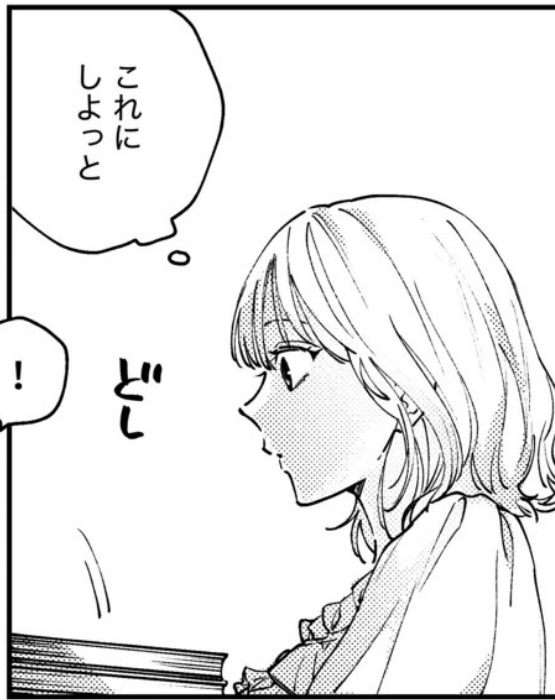
いつものとこで
良い?
別のとこ行く?

あーいいね!
そうしよっか!

前から気になってた
とこ行く?

あー
SOO...

...





カ
キ
キ

……も



変わんない
感じだ

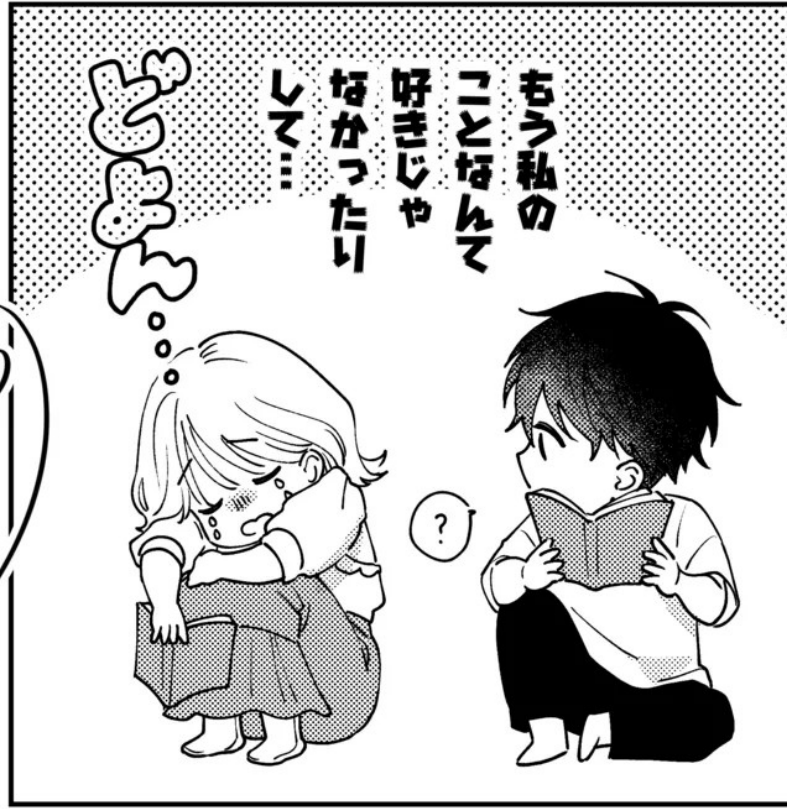


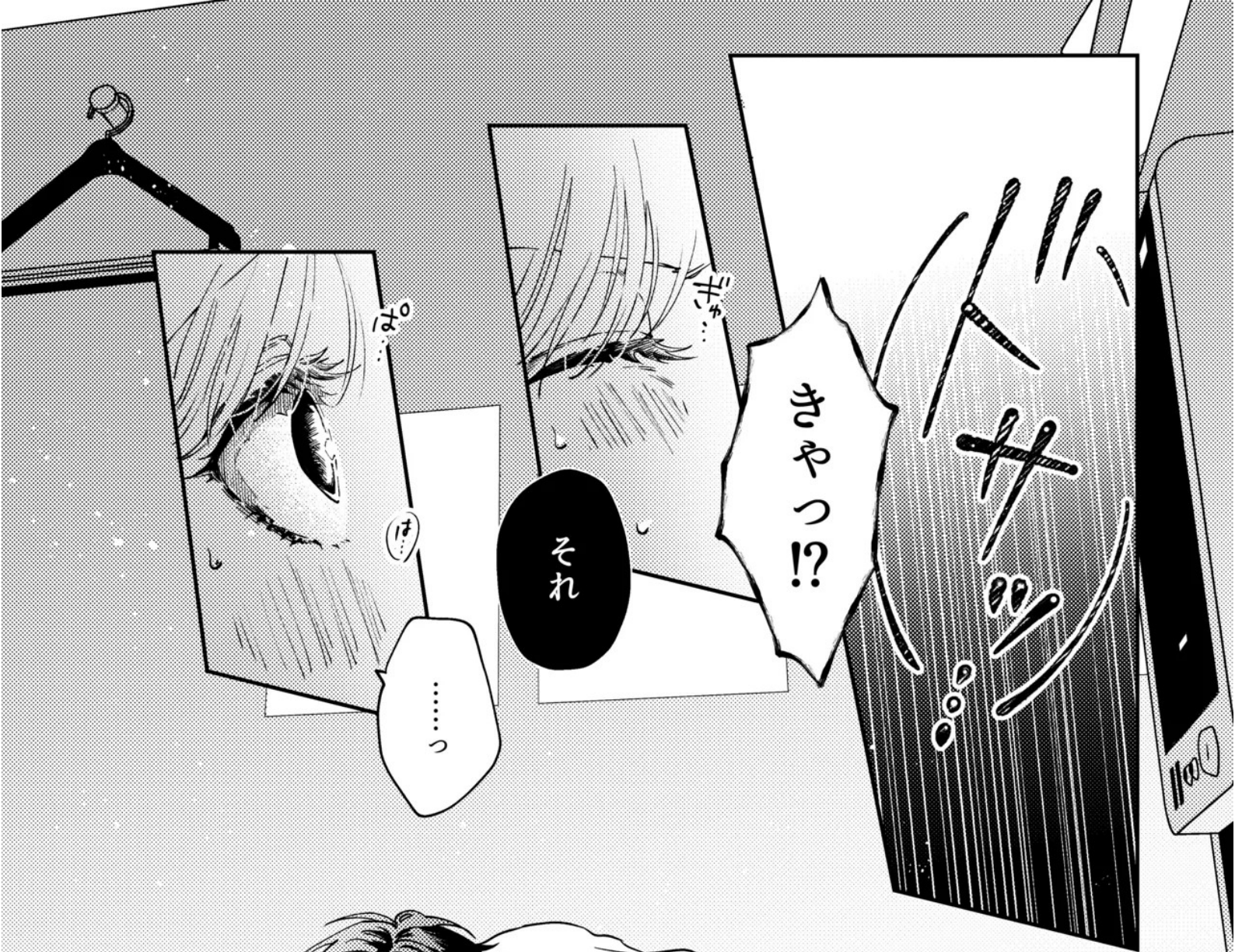
昨日のこと、
何にも言っ
てこないか

ち



……





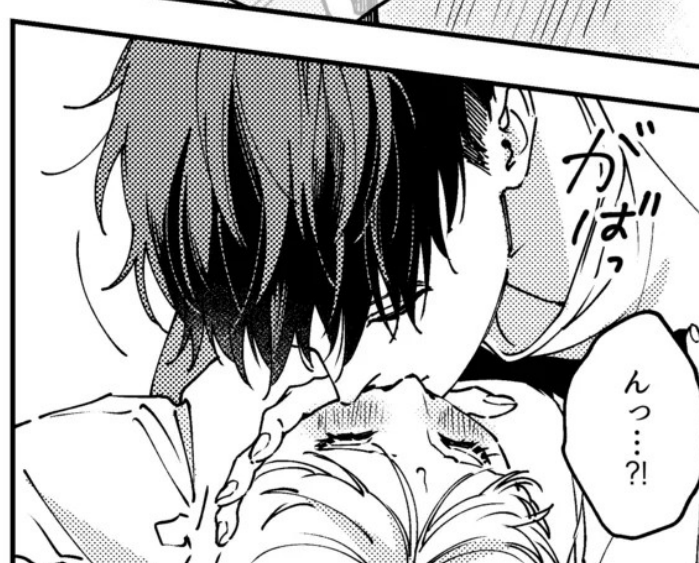
お母さんじゃないけど?



…え?!



ひるき
…?!



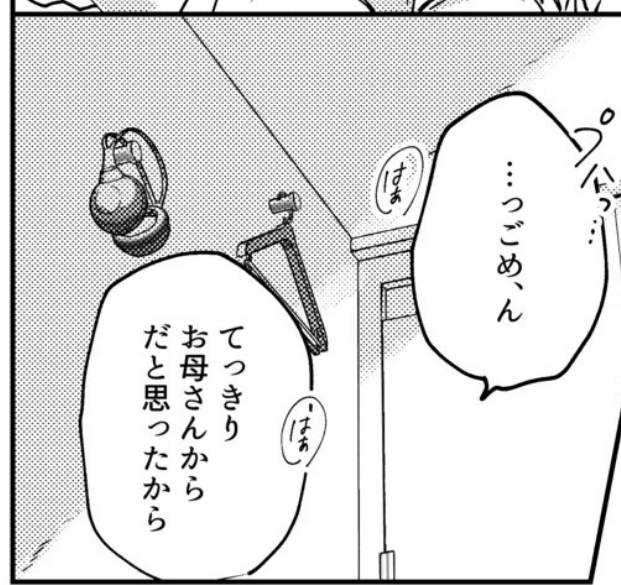
がはっ

んっ…?!



ちっ

違っ…あっ



…つごめん

てつきり
お母さんから
だと思っただから



んび

…はあっ

嘘とかじゃ…っ

んむっ

ないのっ

んあ

んあ…んあ…

ほんとに
ちがっ…

あっ…!

いじもの
ひるぎと
違っ…

っ?!

ニ
ニ
ニ
ニ



随分大事
なんだね

その人との
LINEが



ここ
漫喫だよ

しー...

っ……



ぷりゅんっ



そんな
ことっ…

グ
グ
グ

静かにして

あ…









告白されたって
いうけど、

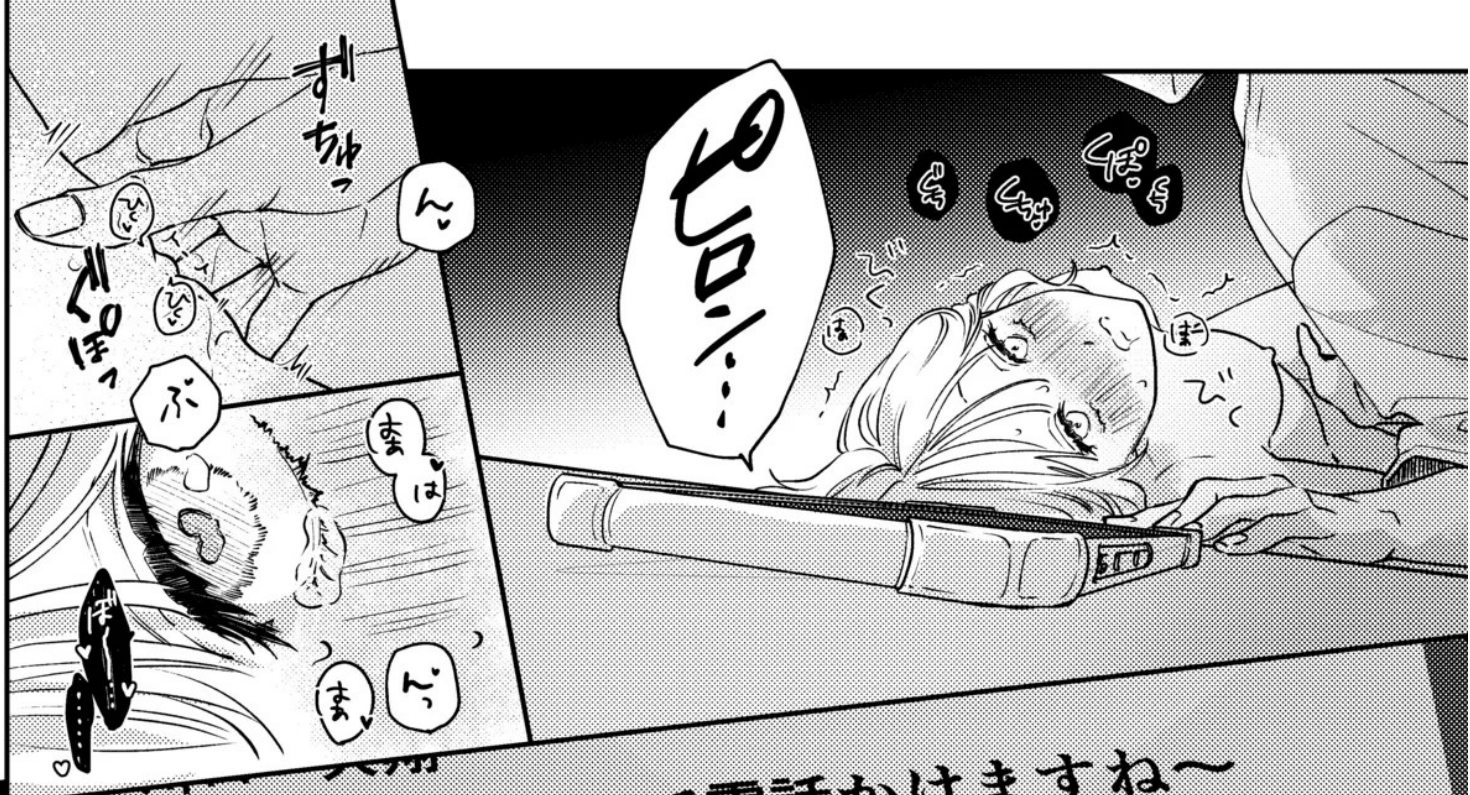
しずかがそう
させたんじゃないの？

ずっとLINE
してるんだ？



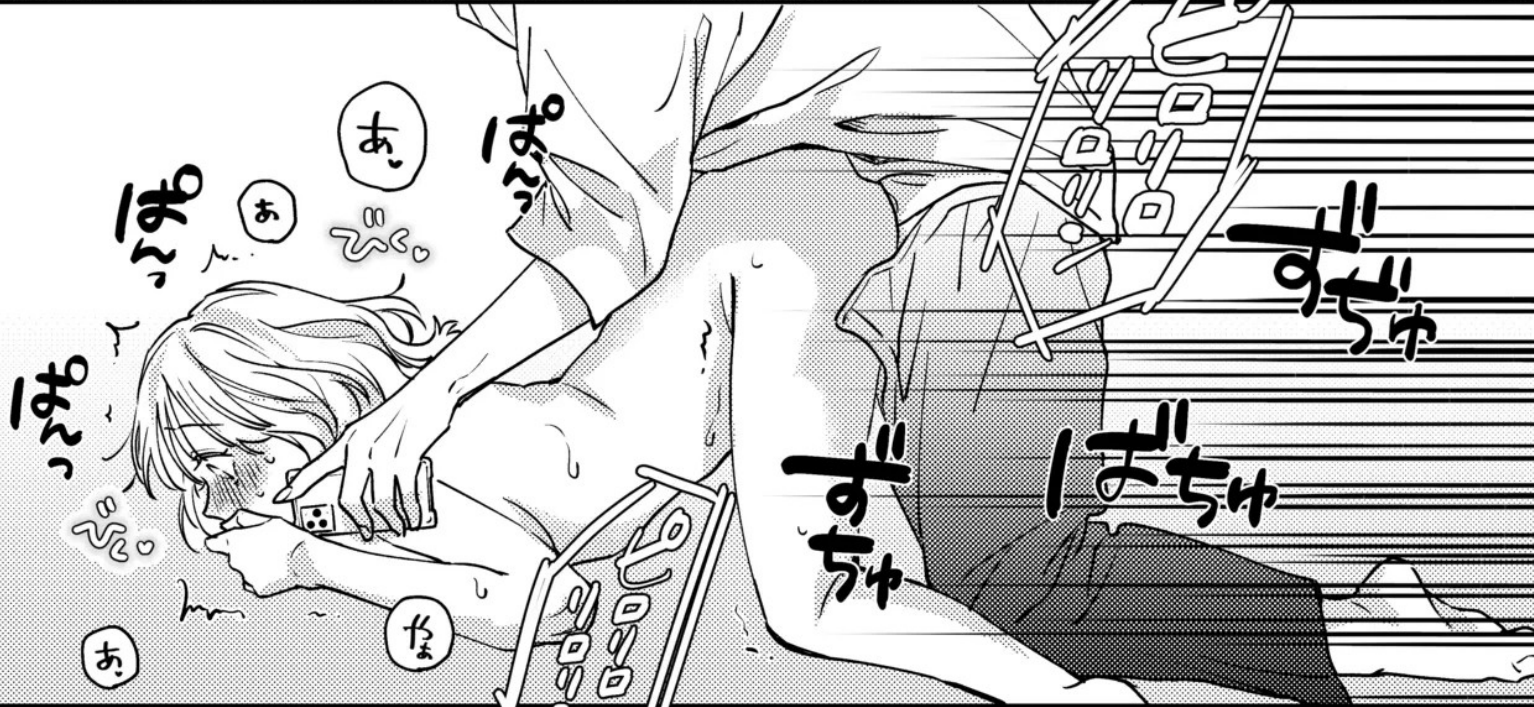
仲良し
なんだね

ずっとLINE
してるんだ？



すぐ確認したいんで電話かけますね～







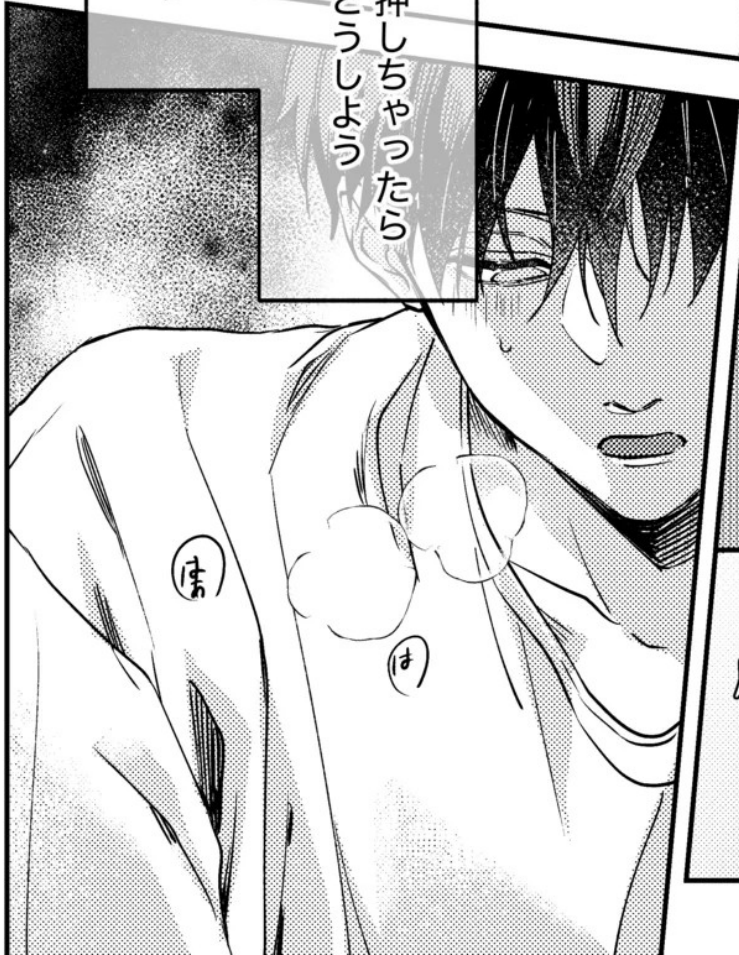
フワッ

フワッ

フワッ

間違えて
応答ボタン

押しちゃったら
どうしよう



スミッ

スミッ

スミッ

スミッ

スミッ

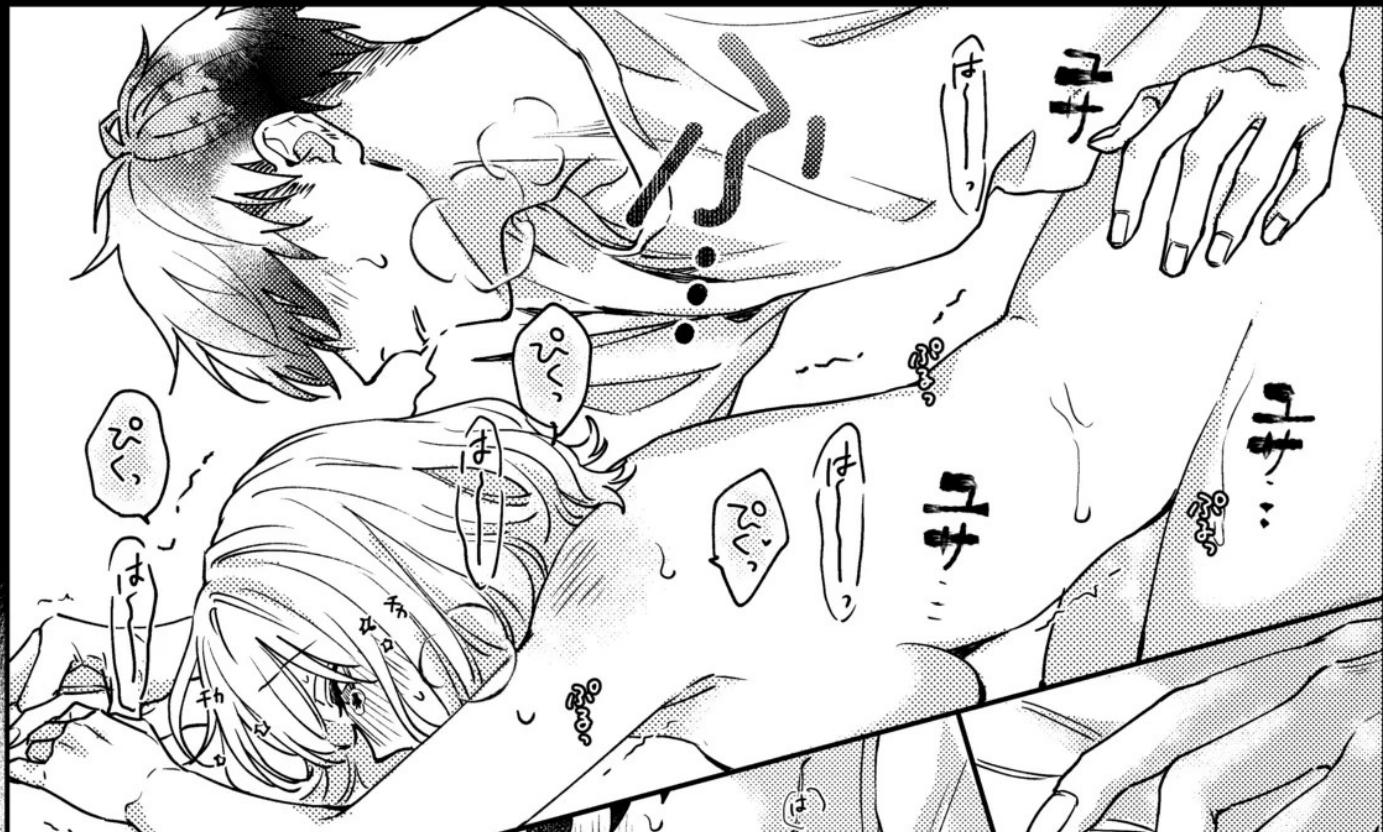
スミッ

スミッ

スミッ

スミッ

スミッ



...だめ、
絶対だめだから



もうその人と
仲良くしちゃ
絶対だめだからね



びしょ...

びしょ...

びしょ...

びしょ...

びしょ...

びしょ...



びしょ...

びしょ...

びしょ...



うんっ、



わかつた…



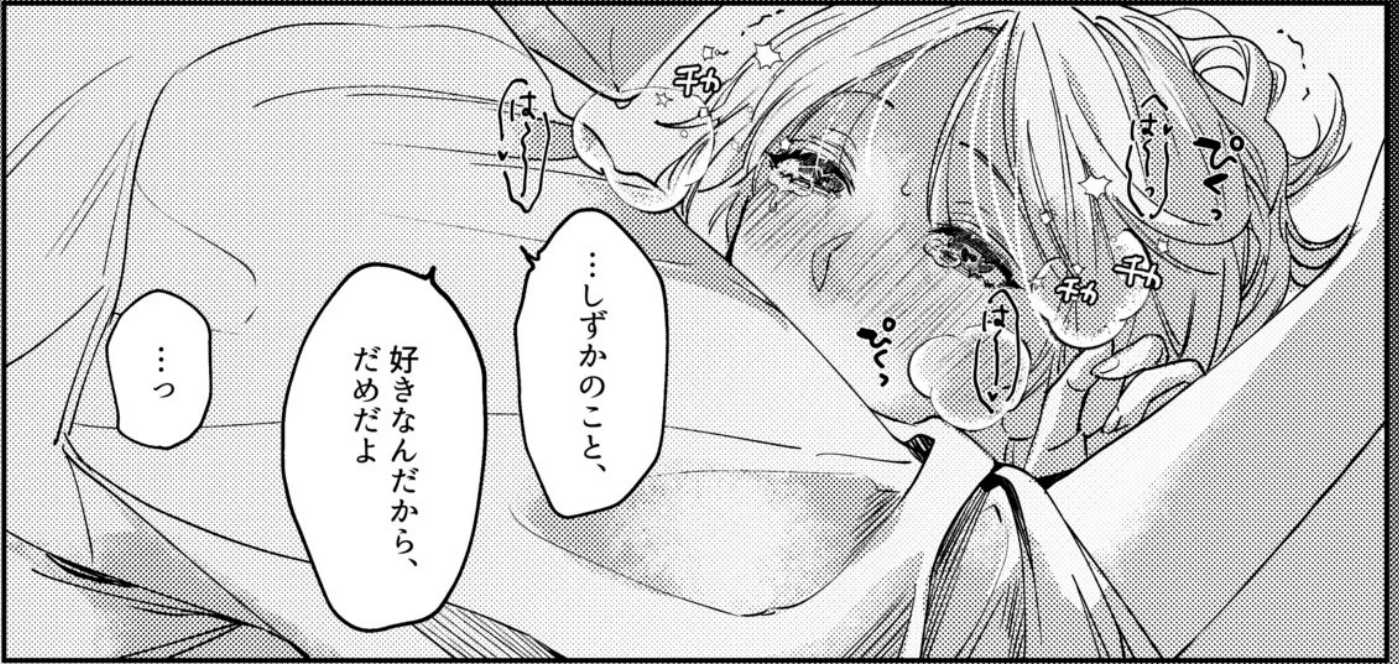
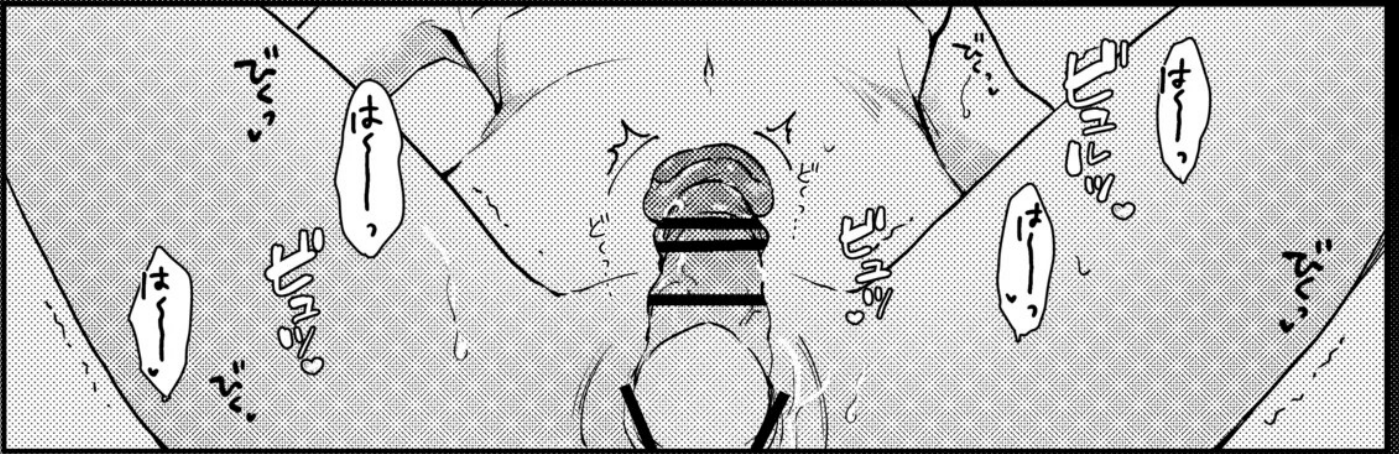
だめだよ



だめ、









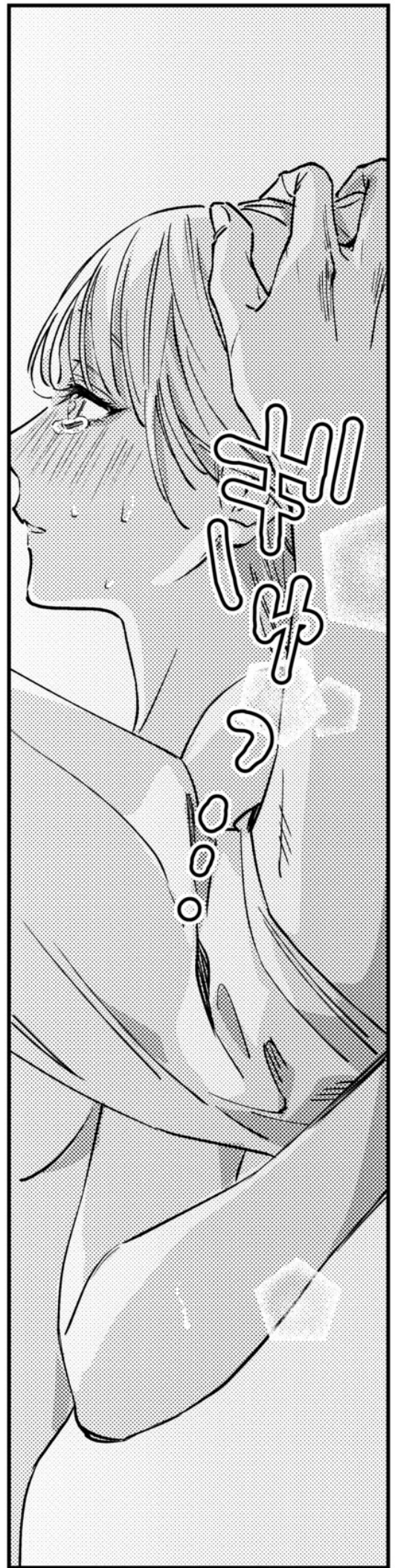
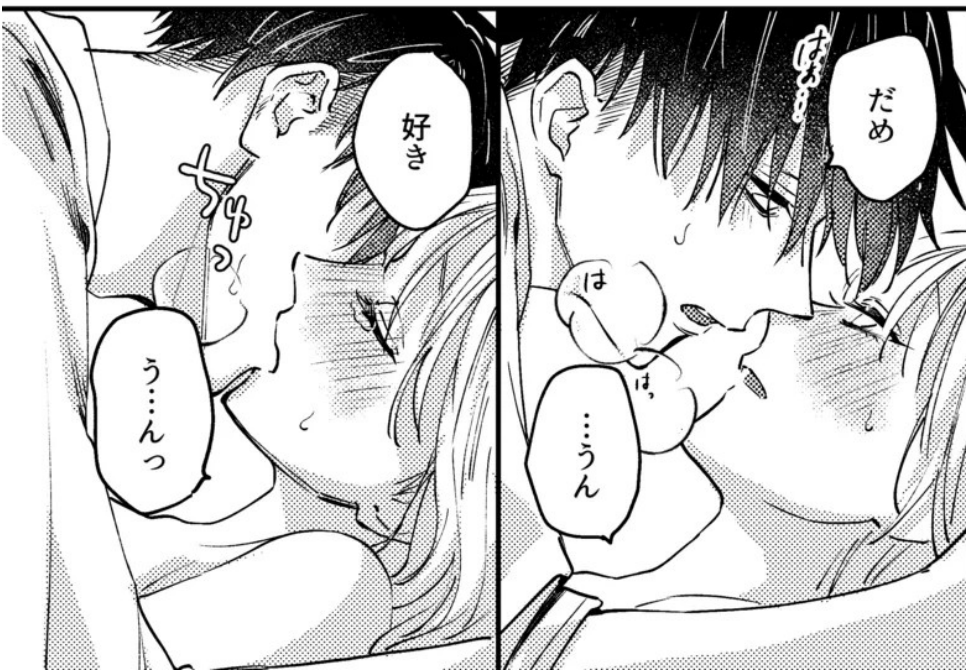
いつも私ばかり
振り回されていた



そんな彼が



？
……



こんなに剥き出しに
なって妬いて
くれる…

すき

すき

だめ

嫉妬したの、

私が初めて
なのかな…

ヒューッ

ん…

やば…

あ、

!

はっ

漫画 ネコピ・ザ・キャット

X(旧Twitter):@nkpTHEcat



あとがき

ネコピ・ザ・キャットと申します。

今回光栄にも、THE猥談様で紹介されている体験談を漫画で描かせていただきました。

我慢しつつも興奮しているしずかと、

Sっ気溢れるひろきの責めが

どのシーンを取ってもものすごくゾクゾクできて、

読者の方もこの漫画を通じてそれを感じていただけていたらとても嬉しく思います。

ここまで読んでくださりありがとうございました。

THE猥談

「ダメだから。 もうその人と仲良くしちゃダメだからね。」 告白された私への彼の嫉妬セックスが最高

原案 - しずかさんからのTHE猥談

THE 猥談

恋人と付き合い一年を過ぎた冬、私は人生で初めて人から告白された。

告白してきたのは、背が高く、眼鏡をかけている優しそうな大学の同級生。同じ授業を取っていたがほとんど話したことはなく、たまに授業に関するLINEがきて、それに返信する、というくらいの間柄であった。

私はその頃、というか付き合いからずっと、彼の交友関係が悩んでばかりだった。

私の恋人は男女関係なく友達が多くて、身長は165センチの私とあまり変わらないくらい可愛いワンちゃんのような男の子だった。

友達が非常に多い彼は、女の子とも抵抗なく仲良くなりやすく、私と付き合いからsns上で多数の女の子とお話していたり、男女グループでディズニーへ行ったり、宅飲みしたりしていた。浮気をするわけではないのだが、距離感が誰とでも近い彼に嫉妬し、それはもうとても嫉妬し、衝突することがよくあった。

だから、同級生から告白された時、その人には悪いが、「きた！」と思った。自分の交友関係が広い代わりに、私の交友関係にも口出しをせず、これまでの彼女にもあまり嫉妬したことがないという彼でも、流石に異性に好意を持たれてると知れば、ちょっとは妬いてくれるかもしれない、と淡い期待を持った。

彼氏がいると知っての告白だったため、返事はいらないと言われた。ただ、自己満足ではあるが、明日以降もLINEをしてもいいかと言われた。「LINEくらいなら別に」と言ってしまったのは、恋人のまだ見たことのない顔が見たいという気持ちが先行したためだった。

私はその日の夜、彼と電話をした。告白の概要を簡単に説明すると、「そうなんだ」と電話越しに彼は言った。

無言。

嫉妬で怒っているのか、それとも興味も無く黙っているのか。しばらくすると口を開いたのは彼だった。

「そういえば今週末漫喫行こうって言ってたね、それ、明日にしない？」

ふたりとも漫画が好きだから、定期的に漫喫に行っていた。翌日、私は彼と近所のいつもの漫喫に向かう。小さな空間に2人で入り、いつもと変わらない会話をする。なんだ、昨日の告白のこと、全然気にもしていないみたいだな。異性のことで嫉妬するのはいつも私の方だけなのかな。元々うまくいけばいい程度だったけど、泡のような期待はすぐに弾けてしまった。

ピコン。

私の携帯に通知が届いたのに、いち早く気づいたのは彼だった。

「携帯鳴ってるよ。」

ちょうど母親と連絡をとっている時だったので、あ、お母さんだと言って通知を開いた。が、それは母でなく昨日の同級生だった。私がそれに気づいたのと、彼が私を押し倒したのとは、どちらが早かっただろうか。

「お母さんじゃないけど」

どこからどう見ても男の名前である通知を瞬時に盗み見たらしい彼が、私のストッキングを無理やり引き下ろしながら言った。

「ごめん、てっきりお母さんからだと思ったから
「嘘とかじゃないの、ほんとにちがくて」

喋ろうとすればするほど、彼は強く、食べるように私にキスした。本当にいきなりだった。ストッキングを脱いでしまうと現れる無防備な下着をも、なんの躊躇いもなく脱がされそうになり、私は心底びっくりした。いつもの行為はゆっくりで、可愛い彼は激しく責めるような性格ではない。

どちらかという、私が意地悪をするような流れがほとんどだったため、こんな風に押し倒されることなどなかったのだ。

驚きでぎゅっと携帯を握る私を彼は上から見下ろした。

「随分大事なんだね、その人とのLINEが」

違う、と叫びたくても、他の人がたくさんいる漫喫で声を出すこともできない。服と、肌着と、それからブラジャーを遠慮なく乱暴に捲り上げられ、携帯を握る私の手首を酷く強い力で押さえながら、首筋や、胸や脇腹をくちゅくちゅと音を立てて舐められた。狭い漫喫の一室で、ブラジャーからはみ出した胸や、既に全部脱がされた下半身は随分と彼の目に卑猥に映ったのだろう。強く手首を押さえつけながら嘲笑された。

ピコン。

空気を読まず私の携帯は鳴った。嘘でしょ。また、あの同級生からLINEが来る。どうやら一度既読をつけたにも関わらず返事がかないため、追いLINEがきたのだ。嘲笑していた彼の目が変わった。やばい、と思うよりも早く、私の濡れすぎたところに彼の右手が置かれた。

「仲良しなんだね。ずっとLINEしてるんだ。
告白されたっていうけど、君がそうさせたんじゃないの」

喘ぐことしかできない私をいいことに、そんなふうには彼は私を煽り、ぐちゅぐちゅとわざと音を立てながら濡れたそこを責めてきた。ピコン、と通知が鳴るたびに、彼の指が動き、私は絶頂する。朦朧とする意識の中で一つだけ見えた「すぐ確認したいんで電話かけますね〜」という通知に、心臓が鳴った。電話がくる。どうやら、授業が何かのことで急ぎの用事だったのだ。いやそんなことはどうでもいい。

電話がくる？彼から？
こんなぐちゃぐちゃにされてる今？

「通知うるさいよ、電話出て。」

気づいた時には後ろから挿入され、彼に何度もそう耳元で呟かれた。ポロポロポロ、という呼び出し音に被るように、ずちゅ、ぐちゅ、と、うつ伏せ状態の私を好き放題突いてくる彼のものと私の中の摩擦音がした。激しく突かれすぎて、携帯を持つ手が震える。もし間違えて応答を押してしまったらどうしよう、どうしよう、と、後ろから突かれ手で下半身の突起を同時にいじられる快感の中、心底ハラハラした。

大学では物静かで清楚に見えるだろう私が、こんなふうには半裸にされ恋人からの無理矢理の性行為に興奮していると知れば、あの同級生はおそらく告白を撤回することだろう。呼び出し音がようやく止まると、彼は腰を振ったまま私に覆いかぶさり、私の耳を噛みながら言った。

「だめ、絶対だめだから。
もうその人と仲良くしちゃ絶対だめだからね。」

こんな状況にも関わらず、彼の言葉に私の純情がきゅんと火照った。わかった、わかったよ、と何度言っても、「だめ、だめ。」「好きだから。」「だめ。」と腰を休めず耳を舐められながら壊れたように彼は言い続ける。なだめればなだめるほど、乳首や首筋、下の突起を狙われた。彼が触る私の身体の全てが、性感帯のようだった。

彼が果てる頃には、私はもうひどくぐったりとし、身体を起こすことはしばらく不可能だった。肩で息をしていた。

そんな私に口づけしながら、まだ尚、「だめ、好き。」と言い続ける彼を遠い意識の中で、もしかしてこの男は、私よりも、何よりも嫉妬深いのかも知れない。

いや、そもそも嫉妬という感情を、彼は初めて知ったのでは、と、ぼんやり思った。

●タイトル：いつも余裕な陽キャ
彼氏の嫉妬えっちが止まらない!!
●漫画：ネコピ・ザ・キャット ●
原案提供：しずか ●サークル：
THE猥談 ●発行者：株式会社
5050プロダクションズ

THE猥談

Twitter : @the_waidan
Instagram : @the_waidan